

1 単元名 P-1 グランプリ ービブリオバトルー

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「ビブリオバトル」を位置付けた。第1学年では「日常生活の中の話題について報告や紹介」することが言語活動例として示されている。おすすめの本の紹介スピーチであるビブリオバトルは、話し手・聞き手双方の読書意欲を向上させることのできる取組である。また、自分の選んだ本をチャンプ本に選んでもらうために、伝えたい相手を意識し、話し方を工夫して聞き手の心をつかむ必要があるため、「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」(A 話すこと・聞くことウ)の目標を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 生徒観

1学期に「聞き取って整理しよう」という単元において30秒スピーチを行い、その音声データを分析する実態調査(平成*年*月*日実施、第1学年*組*人)を行った。「場面に応じて効果的に使い分けしている」をA、「工夫しよう意識している」をB、「単調であり、工夫がない」をCとして評価を行った。その結果、「構成の工夫」「話す速度」「音量」「相手に分かりやすい語句の選択」「相手や場に応じた言葉遣い」の項目においては、*名以上の生徒がB評価以上であった。それに対し、「相手の反応を踏まえながら話すこと」は*名以上がC評価であり、「声の調子や間の取り方」も*名がC評価であった。

このことから、本学級の生徒は、相手意識をもち、言葉の調子や間の取り方を工夫して話す力に課題があると考えられる。

(2) 教材観

「ビブリオバトル」とは、2007年に谷口忠大氏によって考案された、書評合戦のことである。発表参加者が、読んで面白いと思った本を持って集まり、順番に本の紹介スピーチを行う。発表後に本に関するディスカッションを行い、最終的に「どの本が一番読みたくなったか」という投票をし、「チャンプ本」を決定するというものである。バトルという形式を取ったスピーチであるビブリオバトルを行うことにより、目的意識や相手意識が明確になり、自然と「本の良さを相手に伝えるために工夫をしよう」という意識が生まれると考えた。また、「P-1 グランプリ(プレゼンテーション No.1 決定戦)」として、チャンプ本だけでなく話し方 No.1 も決定することにより、本来のビブリオバトルよりも「話し方」についての意識を強くもって活動に取り組むことができると考える。

(3) 指導観

本単元では、「工夫した話し方」に気付くために、複数のグッドモデルを示す場を設定する。それらのモデルの中から、「好きだ」「魅力的だ」と感じた話し方のモデルを選択する。そうすることにより、「最終的に、こんな話し方ができるようになるための活動なのだ」という具体的なイメージがもてるようになると思う。次に、選んだモデルについて検討し、話し方の工夫について気付くための場を設定する。そして、それらの気付きをもとに「話し方のポイントチェックリスト」を作成する。そして、チェックリストを活用し、自ら発見した話し方の工夫を意識しながらビブリオバトルを行うことができるように指導していきたい。

4 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	・伝えたいことが相手によく分かるように、工夫して紹介スピーチをしようとする。
話すこと・聞くこと	・聞き手の様子に合わせて、声の調子や間の取り方を工夫した話し方をする事ができる。
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	・指示語や接続語などの語句を適切に使い、分かりやすく相手に話すことができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
・伝えたいことが相手によく分かるように、工夫して紹介スピーチをしようとしている。	・聞き手の様子に合わせて、声の調子や間の取り方を工夫した話し方をしている。	・指示語や接続語などの語句を適切に使い、分かりやすく相手に話している。

6 単元の指導計画(8時間扱い)

次	時	主な学習活動	主な評価規準	関	話	言
1	1	・ビブリオバトルの映像を見て、今後の学習活動のイメージをつかむ。	・学習活動の見通しをもち、P-1グランプリへの意欲を示している。	○		
	2	・ビブリオバトルのスピーチメモを作成する。	・指示語や接続語などの語句を適切に使い、分かりやすいスピーチメモを作成している。			○
	3					
2	4 (本時)	・グッドモデルを分析し、効果的な話し方の工夫を知る。	・グッドモデルの話し方を、今後の自分の表現に役立てようとしている。 ・言葉の調子や間の取り方などの話し方の工夫に気付いている。	○		○
3	5	・「話し方のポイントチェックリスト」を作成し、自分の過去のスピーチを自己評価する。	・過去の自分のスピーチを振り返り、課題に気づき、今後の活動への意欲を高めている。	○		
	6	・チェックリストを用いながらリハーサルを行う。	・聞き手の様子に合わせて、声の調子や間の取り方を工夫した話し方をしている。			○
	7	・P-1グランプリを行う。	・指示語や接続語などの語句を適切に使い、分かりやすく相手に話している。			○
	8					

7 本時の学習

(1) 目標

- ・グッドモデルの話し方を、今後の自分の表現に役立てようとする。
- ・グッドモデルの分析を通して、言葉の調子や間の取り方などの話し方の工夫を知ることができる。

(2) 準備・資料

ワークシート、プロジェクター、パソコン、付箋、ホワイトボード、ヒントカード

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>P-1 グランプリで勝利をつかむための話し方のコツを知ろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動意欲を喚起するため、本時の学習内容を踏まえながら次時からいよいよ発表の練習を行うことを確認する。
<p>2 グッドモデルを分析し、効果的な話し方の工夫を知る。</p> <p>(1) グッドモデルのVTRを見る。</p> <p>(2) グッドモデルを選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組めるようにするため、グッドモデルは複数用意し、自分の話し方をより良くするのに適したモデルを、自ら選択させるようにする。

(3) 選んだモデルの話し方の工夫について分析する。

①モデルのVTRを見ながら、話し方の工夫として気付いたことを付箋に書き込む。

② KJ法を用いて話し合いをする。

- ・声の大きさに強弱をつけている。
- ・話す時に間をしっかりとることで、聞き手をひきつけている。
- ・大切な所は、大きく、ゆっくりと話している。
- ・ジェスチャーを使って話している。
- ・聞き手の方を見て話している。

3 学級全体で、グループで出された話し方の工夫を発表する。

4 自己評価を行う。

・学習計画カードを使って振り返る。

- ・表現を工夫することで、聞きたいと思わせる話し方になることが分かった。
- ・話上手な人は、話す速度や声の大きさなどを工夫していることが分かった。

- ・本時の目標に確実に迫ることができるように、「言葉の調子の工夫」「間の取り方の工夫」と具体的に分析の観点を提示する。
- ・分析の観点が明確になっていない生徒や、なかなか考えが出せない生徒には、ヒントカードを渡し、思考の整理の手助けとする。
- ・全ての生徒が発表する場を設け、多様な考えを視覚的に分かりやすくまとめることができるよう、話し合いにKJ法を取り入れる。
- ・話し合いを活発にするため、話し合いの中で新たに気付いた話し方の工夫は、色の違う付箋で記入して貼るよう助言する。
- ・話し合いがスムーズに進めることができるように、学習リーダーに本時の話し合いの進め方をあらかじめ伝えておく。

(評)グッドモデルについて分析を行うことで、効果的な話し方の工夫に気付いている。(観察・KJ法シート)

・自分のグループ以外で出された意見も自分の表現の参考にできるようにするため、グループの意見を全体で確認する。

・学習の振り返りに、学習計画カードを用いて、今日の学習を通して分かったことを確認する。